

説明ポイント①：国道 125 号



〈特徴〉

市を東西に横断する国道 125 号は、古くから中心市街地の骨格的な都市軸として、自動車や人の往来も市内では比較的多い通りである。沿道に建ち並ぶ商店や民家は、低層で同じような規模のものが多く、連続性が感じられるまち並みが形成されている。沿道の建物の中には歴史的建築物や蔵も存在し活用されているものの、沿道沿いの建物は全体的には空き店舗が目立つ。

市役所前から一部の区間で電線類地中化整備事業が実施され、それに伴い電気系統の機器を隠すためにやぐらと銅人形が設置されるなどの整備も行われている。

〈点検のポイント〉

- ✓ 中心市街地における東西方向のメインストリートとして、どんなまち並みがふさわしいか
- ✓ まち並みの改善点

説明ポイント②：足袋蔵ギャラリー門、cafe 閑居



〈特徴〉

足袋の商店であった奥貫忠吉商店の住宅部分（昭和 5 年竣工）をカフェに、足袋蔵部分（大正 5 年上棟）をギャラリー、建築設計事務所として活用している。カフェでは様々な教室が開催され、ギャラリーでは展示やイベント等が行われており、来訪者も多い場所である。

足袋蔵の裏手の通りは、国道 125 号まで続いているものの、数か所の角を曲がるカギ型の通りの構成となっており、忍城の城下町であった名残りが感じられる場所の一つである。

〈点検のポイント〉

- ✓ 足袋蔵や歴史的建築物をどう改修・活用すれば良いか
- ✓ 城下町であった行田を継承していくには、なにが必要であるか

説明ポイント③-1：^{あらかち}新町通り



〈特徴〉

国道 125 号線との交差点より南側の行田蓮田線の沿道は、片屋根式のアーケードが設置されている^{あらかち}新町商店街が形成されている。昔ながらの商店が軒を連ねており、壁面の位置や建物の高さ等に統一感が感じられる空間となっている。また、通り沿いには足袋蔵が点在している。近年は、商店の閉店や空き店舗が目立つ。

〈点検のポイント〉

- ✓ 商店街のにぎわいづくりには、なにが必要であるか
- ✓ 空き店舗などをどのように活用すれば、にぎわいが創出されるか

説明ポイント③-2：今津印刷所（今津蔵）



〈特徴〉

現存する行田最古の店蔵である今津蔵（推定江戸時代後期～末期竣工）は、今津印刷所の店蔵として新町通りに面して建っている。今津印刷所は江戸時代創業の老舗印刷所であり、田山花袋の小説『田舎教師』に登場する、「行田印刷所」のモデルとなった店舗である。店蔵内には、かつて使用していた活版印刷機も残っており、行田の近代の様相をうかがい知る貴重な近代化遺産である。

〈点検のポイント〉

- ✓ 歴史的な建物をどのようにして活かしていくか
- ✓ 点在する資源同士をどのようにつなげれば、にぎわいが創出できるか

説明ポイント④：長井写真館



〈特徴〉

行田では数少ない木造の洋風建築であり、大正時代から現在まで写真館としてこの地に佇んでいる。モダンなデザインで、当時の面影を残す貴重な建物である。

〈点検のポイント〉

- ✓ 歴史的な建物をどのようにして活かしていくか
- ✓ 点在する資源同士をどのようにつなげれば、にぎわいが創出できるか

説明ポイント⑤－１：保泉蔵



〈特徴〉

行田一の足袋の原料商店であった保泉商店の足袋蔵は、明治、大正、昭和にかけて建設された様式の異なる5つ足袋蔵群（石蔵、土蔵、モルタル蔵）であり、城下町特有の短冊型の細長い敷地に建ち並んでいる。行田を代表する蔵群である。

〈点検のポイント〉

- ✓ 足袋蔵や歴史的建築物をどう改修・活用すれば良いか
- ✓ 点在する資源同士をどのようにつなげれば、にぎわいが創出できるか

説明ポイント⑤-2：足袋蔵まちづくりミュージアム



〈特徴〉

足袋商店の栗原代八商店の足袋蔵（明治 39 年竣工）を活用した足袋蔵まちづくりミュージアムは、現在はまちづくり情報センターを併設した観光案内所として利用されている。外観の白壁と、屋根や土台部分などの暗めの灰色とのコントラストが印象的な足袋蔵である。

〈点検のポイント〉

- ✓ 足袋蔵や歴史的建築物をどう改修・活用すれば良いか
- ✓ 点在する資源同士をどのようにつなげれば、にぎわいが創出できるか

説明ポイント⑥：武蔵野銀行行田支店



〈特徴〉

国道 125 号と行田蓮田線との交差点に位置する武蔵野銀行行田支店(昭和 9 年竣工)は、国の登録有形文化財に指定され、中心市街地のランドマークのような建物として認識されている。県内でも数少ない戦前の銀行建築であり、足袋で栄えた市の歴史を物語る近代化遺産である。

武蔵野銀行行田支店の横を通り、秩父鉄道行田市駅へとつながる通り沿いや駅周辺には、商店が点在しているもののにぎわいに欠け、市の玄関口の一つとしては落ち着いた印象となっている。

〈点検のポイント〉

- ✓ 点在する資源同士をどのようにつなげれば、にぎわいが創出できるか
- ✓ 行田市駅から中心市街地を歩いて楽しむには、なにが必要であるか
- ✓ 市の玄関口としての行田市駅周辺をどう整備すれば良いか

説明ポイント⑦：蓮華寺通り



〈特徴〉

蓮華寺へと続く蓮華寺通り周辺には、そば店として活用されている忠次郎蔵（大正 14 年上棟）、時田蔵（大正時代竣工）、時田足袋蔵（昭和 4 年上棟）、藍染体験施設として活用されている牧禎舎（昭和 15 年竣工）などの足袋蔵や歴史的な建築物が集積している。通り沿いは住宅が建ち並んでおり、空地や駐車場が目立つ。近年、通りの舗装の整備が行われた。

〈点検のポイント〉

- ✓ 統一感が薄いまち並みの改善点
- ✓ 足袋蔵や歴史的な建築物が集積する場所として、どんなまち並みがふさわしいか

説明ポイント⑧：足袋とくらしの博物館



〈特徴〉

足袋商店の牧野本店の店舗兼住宅（大正 13 年上棟）と足袋工場（大正 11 年上棟）を活用した足袋とくらしの博物館は、当時の足袋工場の様子を伺える造りとなっており、足袋づくり体験が出来る場として市内外の人が訪れる場所である。

〈点検のポイント〉

- ✓ 足袋蔵や歴史的建築物をどう改修・活用すれば良いか
- ✓ 点在する資源同士をどのようにつなげれば、にぎわいが創出できるか